

題名：「韓国学資料研究のための学生・ポストドクワークショップ in Seoul」報告書

氏名：小池修

所属：東京大学大学院総合文化研究科博士課程

専攻：地域文化研究専攻（2016年3月現在）

2016年2月21日から同24日の間、ソウルで行われた標題のワークショップに参加する機会をいただいた。以下に訪問した各機関での活動の概要と所見を簡単に記し、報告に代えたい。

21日夕方からの参加者顔合わせに続き、翌22日午前に訪問した世宗研究所では、研究所の現況について説明を受けた後、図書室を見学させていただいた。研究所の説明では国策研究機関とは異なり、民間の研究機関として独立して研究を行っている点、内部では多様な意見があるが、徹底した議論を通して結論を導き出しているという点が印象的であった。図書室では、研究所設立当時に収集した貴重な洋書が多くあったこと、また、かつては閲覧が制限されていた北朝鮮関連の文書庫があったことが興味深かった。

続いて22日午後に訪問した国家記録院ソウル記録館では、案内付きの館内ツアーの後、質疑応答の時間をいただいた。館内ツアーでは、文書資料の保存方法だけでなく、写真資料や映像資料が最新の技術で保存処理される過程を、直接作業する姿を見る形で見学することができた。質疑応答では、資料の具体的な数量や閲覧方法などについてのより詳しい説明を聞くことができた。

翌日22日の午後に訪問した国史編纂委員会では、委員会が運営している各種のデータベースについて説明を受けた後、実際に資料検索の実習をした。データベースが非常に充実しているとともに検索が容易であった。外部からも閲覧が可能な資料もあった。

引き続き訪問した国民大学校では、柳美那先生ご講演の後、参加した先生方と学生たちと交流会を持った。柳先生の「資料検索の方法と演習」についてのご講演では、ご自身の経験を踏まえつつ資料を使った研究の進め方について、日韓の資料群を網羅されながら語られた。国史編纂委員会のデータベースについても言及され、同データベースが膨大な資料群のうちどのような位置にあるのかも理解することができた。

最終日の23日の午前に訪問した外交史料館では、韓国における外交史料の概要の説明を受けた後、マイクロフィルムの閲覧の方法などの実習を行った。

本ワークショップを通して、報告者の研究では主に外交史料館所蔵の史料のみ利用してきたところ、他分野の史資料も視野に入ってくるようになり、韓国学研究のための資料調査について総合的な知識を得ることができた。それに加えて、同じ大学に所属し、同じ地域の研究をしながら今まで出会えなかった多くの同学の皆さんと知り合い交流できたことも大きな成果であった。

最後になりましたが、意義深いワークショップに参加する機会を与えてくださった韓国学研究部門の先生方、快く訪問を受け入れてくださった研究機関の方々、そして韓国学中

央研究院に深く感謝申し上げます。